

観 点 ・ 小 問 ご と の 分 析	対 策 の 視 点
<p>の気候グラフを選ぶ(1)の正答率は60%である。誤答例としては「ア」・「ウ」・「エ」のグラフを選んだものが、それぞれ同じ位の比率である。</p> <p>分布図とグラフから読み取れる項目を選ぶ(2)の正答率は63%で、誤答例としては選択肢の「イ」が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 気候グラフは、気温と降水量を同時に表しているのので、凡例、単位に注目させて読み取らせ、特色ある地域と気候グラフを結びつけ、人々のくらしや産業と関連づけてとらえることが大切である。</li> </ul>
<p>観点②（資料活用能力）について</p> <p>棒グラフ、帯グラフ、気候グラフ、統計地図など多くの種類の資料から出題したが、観点②の平均正答率は56%である。しかし、小問によっては、45～78%の差が見られる。</p> <p>ある一つの資料でわかることは何か、その資料だけではっきりわからないからもっと確実にわかる資料はないものかと、資料のもつ限界に気づき、意図的に関連する資料を選択できるようにすることは大切なことである。</p> <p>授業の中で、児童がある考えを述べる時、その考えの根拠となる資料を押さえ、客観的で公正な資料をもとに思考したり、判断させる訓練を積ませたい。</p> <p>資料の収集・選別・作成などの幅広い操作活動を通じて資料活用能力は高まるので、自作資料を活用する機会を設け、指導の効果を高めたい。</p>	
観 点 ・ 小 問 ご と の 分 析	対 策 の 視 点
<p>③ 社会的思考・判断</p> <p>1. 帯グラフをもとに貨物輸送の増大と発達についての思考・判断</p> <p>貨物輸送に占めるトラック輸送の比重の増加を判断した正答率は58%である。トラック輸送の比重が増大した理由を判断させる問の正答率は59%である。誤答の大部分は、大量輸送機関である船を選んでいる。</p> <p>貨物輸送の増大を産業の発達と関連させて思考した正答率は40%である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 既存の知識を用いて帯グラフを読み取らせ、トラック輸送の比重増加の背景を考えさせる問題であるが、設問の「わが国の国内の」という条件を見落としたための誤答もみられるので、設問を正しく読み取る習慣を身につけさせたい。</li> <li>◦ 各種の輸送機関の役割と現状をとらえさせ、特に産業の発達と関連させて理解させたい。</li> </ul>
<p>2. 稲作農業の最近の働きと社会的背景との関連についての思考</p> <p>労働時間の短縮、減反政策、兼業農家の</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 品種改良、機械化と省力化、兼業化、生産調整など稲作農業の最近の動きを各種の資料を用いて把握させ、その理由、原因増大の理由</li> </ul>